

一時の台風ラッシュが嘘のように、秋の好天が続きます。先週末の金曜日は、最高の冷え込みで、朝の車のフロントガラスは凍っていました。そして、志賀高原の山々は白く染まりました。薪ストーブの薪の準備もバッチリで、干し柿の保存食も整い、しっかりと冬の準備が着実に進んでいます。

秋の好天の下での子ども祭り、ありがとうございました。皆様のご協力とエネルギーの賜で、素晴らしいお祭りとなりました。本当にお疲れ様でした。ゆっくりと、終盤の秋をこれからはご堪能下さい。子どもたちは、お祭りの準備に左右されることなく、カネチョロを中心に、相変わらずの日常を淡々と過ごしています。大地の丘の季節の移り変わりという低刺激が、最高の楽しさともたらしめているからでしょう。

大地の森の整備事業もほぼ3分の1を終了しました。子どもたちは、日々変わりつつある森の姿、大木が倒れる光景、樹木がどのように処理されていくのか、身近な大地のOBの加島さんや青ちゃんが、どのように働いているのか、大事な大地の樹木が、どのような道筋をたどっていくのか、人の働く姿、森や環境の変化など、暮らしの体験を体感していてももらえればと願っています。家の建築や子どもたちの製作と同じで、日々人間の働きによる創造的な世界の変化を何気なく毎日見ていくこと、そこに職人や人間の器用な営みがあることを感じる、そこに人の可能性を感じてくれることを望みます。身近な人達が作り上げていく世界を通じて「僕たち私たちも、もしかしてできるかも」やってみたくてというエネルギーが、どこかに蓄積して、好奇心旺盛にチャレンジしていく事を心から願っています。「高社の丘」と命名された大地あみあみ広場。子どもたちが「本当にきれいだね」とつぶやいてくれたことが一番です。



【人生三感王の法則】

「美しいものに感動します・・・」と唱える事から始まる大地の朝のスタッフミーティング。大地の事務室から見るもみじヶ丘（子ども祭りフィナーレ会場）の紅葉の美しさ。きっと日本一の事務室の窓辺だと思っています。同じく、2階音楽堂からの眺めも最高です。朝の唱和は、まさにこの紅葉を見ながら唱えると、鳥肌が立つほど魂に響いてきます。

久しぶりにタイトルの「人生3感王の法則」に出会いました。確か、ユニーの創始者の言葉だったと思います。野球の三冠王は誰もが知っていますが、人生にもそれがあってもよいと言うことで、それを人生に例えたら、3感王と言うことでしょう。その三つの感とは「感動」「感激」「感謝」ということです。感動上手は若さの素、感激上手は元気の素、感謝上手は幸せの素、

まず、「感動上手は若さの素」

以前童にも書きましたが「青春の詩」で知られるサミュエル・ウルマン

青春とは人生のある期間をいうのではなく、心の様相をいうのだ。

優れた創造力、たくましく意志、炎ゆる情熱、……（中略）

こういう様相を青春というのだ。

年を重ねただけでは人は老いない。……（中略）

歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。

人は信念とともに若く、疑惑とともに老いる。

人は自信とともに若く、恐怖とともに老いる。

希望ある限り若く、失望とともに老い朽ちる。

つまり、青春とは肉体的な若さではなく、精神の若さでしょうか。この若さの源はまず「感動」であると思います。映画を見たり偉人伝を読んだり岩波少年文庫を読んだりして感動すると、自分でもできると思い込み、すぐに行動したり、主人公になってやってみたりしたことはありませんか。感動して、すぐにパッと行動出来るのも、若さの特徴だと思います。

また、眼を輝かせて熱く語る人、そんなふうに感動を伝えて話す人には、ものすごい勢いや若さを感じます

次に「感激上手は元気の素」 感動との違いを調べてみました、

《感動》

- ・「包まれるもの、じんわりと浸るもの、外側(五感)から内側(心)へ向かうもの」「ゆっくりと心の中に入り込むもの、しみじみとしたもの」というイメージがある。
- ・自然と心の中から湧き上がる暖かな思い。
- ・出来事を通して、もともと自分の中に備わっていた感性が呼び起されたり、自分にはないと思っていた感性が備わっていたということに気付かされたりする 心の動きで、「発見や再生という感情が好ましい方向に揺れ動くこと」。

《感激》

- ・直接的に感じ取ることで、突然心の中に飛び込んで来る思いのことで、熱い感情を伴うもの。
- ・好ましい出来事に遭遇したり、好ましい感情を注がれたことに反応して、舞い上がったようになること。
- ・対象に対して何らかの力を感じて心が突き動かされること。

以上のことを踏まえて、《感動》と《感激》のニュアンスにはどんな違いがあるのか、例文を使って考察したいと思います。（1）雄大な風景に思わず《感動》した。雄大な風景に思わず《感激》した。

（2）この雄大な風景を私に見せてくれた彼の心配りに《感激》した。この雄大な風景を私に見せてくれた彼の心配りに《感動》した。

《感動》と《感激》それぞれ1回ずつしか使えず、1と2の例文の《 》を埋めるという条件付きの問題があったとしたら、私はそれぞれ前者の文章を選択します。どちらを使っても間違いではないですが、《感激》には、若干ですが《感動》よりも対象に対する“愛着”が感じられますし、“意に応えたい”という気持ちが感じられるからです。

《感動》というのは《感激》よりも、もっと抽象的な大きな対象に使うことが可能な言葉で、《感激》の場合は対象や条件がもっと的が絞れていて、かつ、その思いや出来事に対する、“感謝”という気持ちが若干ですが強いように感じます。

この感激したり喜んだりすると、心の底からエネルギーが溢れてきませんか。そして、人を喜ばせてあげたり助けてあげたり心配りしてあげたりすると元気が自然にもりもり湧いてきます。まさに元気なエネルギーの素は、喜びや感激にあると思います。

最後に、「感謝上手は幸せの素」 「幸せだから感謝するのでなく、感謝しているから幸せなのだ」というように、感謝するとそこに感謝しないではいられない事が次々にやってきます。

「若さ」「元気」「幸せ」の生産方法は、まさに「人生3感王の法則」だと思います。目指しましょう！！